

2 伝統を学ぶ



復元された昔の家屋

この家屋は、胆振地方の白老で生まれ育った浜弥一郎さん(1916～91)の指導のもとに復元された昔の住まいです。博物館の天井の高さに合わせて、少し小さめにしています。このテーマに展示した資料は今から100～200年前のアイヌ民族のくらしのなかで使われていたものや、それらを復元したものです。現在のアイヌ民族が、このような生活をしているわけではありませんが、伝統的な技術を学び伝えようとしている人たちや、それを現代のくらしに活かそうとしている人たちもいます。

●食文化

アイヌ民族は、山での狩猟、川や海での漁のほか、山菜や木の実を採ったり、農耕をしたりして食べ物を手に入れていました。川ではサケやマスなど、山ではヒグマやエゾシカなどをさまざまな道具や、獲物の特徴をよく理解してつくったワナで捕らえました。自分たちで栽培したアワやヒエ、和人から手に入れた米や塩、味噌なども食材になりました。ヒグマの場合、肉や脂は食べ物に、毛皮は生活用具や交易品にするなど、手に入れた物を余すところなく使いました。

●衣文化

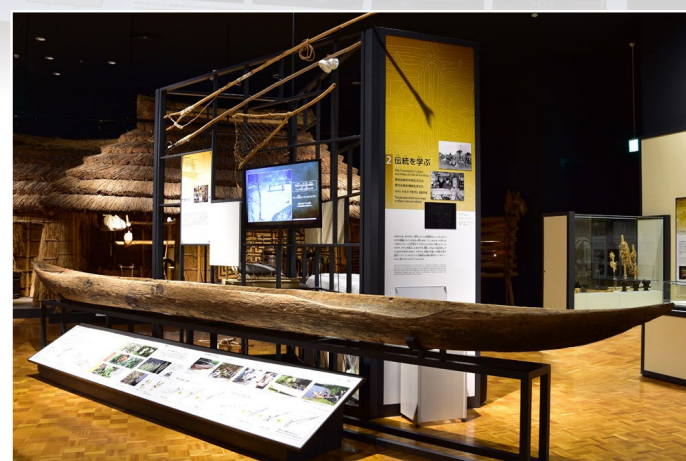
アイヌ民族の昔の衣服の素材には、樹木や草の皮からとった繊維で織った布のほか、獣の皮、魚の皮などが使われました。のちに、交易をしたり漁場で働いたりして木綿が手に入るとなると、木綿の布や糸で模様を付けた着物や、木綿で仕立てた着物がつくられるようになります。現在、これらの衣服を日常の生活で着ることはありません。けれども、儀式を行うときや、行事で歌や踊りなどを披露するときに、伝統的な衣服を着ることが増えてきています。

●信仰

アイヌ民族の信仰では、この世のあらゆるものに〈魂〉があると考えられています。なかでも動物や植物など人間に自然の恵みを与えてくれるもの、火や水、生活用具などくらしに欠かせないもの、天候や伝染病など人間の力が及ばないものなどを〈カムイ〉として敬います。そして、この世界は、人間とカムイとが関わり合い影響し合って成り立っていると考えられています。この考え方は、自分や家族などの健康や安全を守るための知恵や心がまえにつながるものでもありました。

●住まい

アイヌ民族の伝統的な家では、中央に炉があり、家族のすわる場所、寝るところ、宝物や儀式の道具を置く場所などが決まっています。炉ではつねに火種を絶やすことはなかったといわれています。火をたき続けることで地面が暖められ、壁や屋根のヨシなどが断熱材となり、寒い冬をしのぐことができました。



丸木舟とマレク

この丸木舟は、昔、千歳地方で実際に用いられていたものです。このような舟は、主に、河川での漁や、川を渡るなどなどの交通手段として用いられました。舟の上に展示されているのは、サケなどの魚を獲るために用いた、アイヌ語でマレクとよばれる鉾です。モニターでは、丸木舟を操り、マレクを用いて魚を捕らえる様子を記録した映像などを見たいくことができます。



衣服の布地に触れてみよう

アイヌ民族の伝統的な衣服の素材の一つに、オヒョウの樹皮からとった繊維で編んだ布があります。ここでは、その布の手ざわりを感じることができます。また、衣服にみられる刺しゅうが、どのようにして付けられていくのかを、実際の布地で確かめることができます。